

# Catalyst 9300スイッチでのStackPowerおよびXPS 2200の設定とトラブルシューティング

## 内容

---

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[背景説明](#)

[コンポーネント](#)

[Cisco Expandable Power System 2200](#)

[XPS 2200の電源モード](#)

[Expandable Power System 2200の制限事項](#)

[StackPowerへの新しいスイッチの追加](#)

[StackPowerの動作モード](#)

[インテリジェントな負荷管理](#)

[Cisco StackPowerの設定](#)

[StackPower設定の確認](#)

[Cisco Expandable Power System 2200の設定](#)

[Cisco XPS 2200設定の確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[考慮事項](#)

[StackPowerに関する注意事項](#)

[関連情報](#)

---

## 概要

このドキュメントでは、Cisco StackPower(PS)およびeXpandable Power System(XPS)2200の設定と、関連する問題のトラブルシューティング方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

## 背景説明

StackPowerは、スイッチのスタック内で使用可能なすべての電力を集約し、スタック全体で1つの共通電力プールとして管理する機能です。Catalyst 9300は、専用のスタック電源ケーブルを使用するための電力プールを作成する機能を提供します。電源に障害が発生した場合やPoEの消費

電力が増加した場合、スイッチは共有プールの電力を利用して余分な負荷をサポートできます。スタック電源は、電力共有モードと冗長モードの2つのモードで導入できます。これにより、電力使用をより細かく制御できます。

StackPowerは、ゼロフットプリントの冗長電源システム(RPS)を提供します。StackWiseデータスタックと同様に、成長に応じて拡張可能なアーキテクチャをサポートし、インライン電源で1+Nの冗長性を実現します。

Stack Power回路の主な機能は、入力電源から多様な負荷への安全な配電を維持することです。StackPowerはトポロジ内の4つのスイッチのスタックをサポートしますが、1つのStackWiseスタック内では複数の電源スタックを使用できます。たとえば、8台のスイッチで構成されるStackWiseデータスタックを、4台のスイッチで構成される2つのStackPowerスタックに構成できます。スター型トポロジでは、最大8台のスイッチを1つの電源スタックに含めることができます。

## コンポーネント

このドキュメントの情報は、C9300シリーズスイッチに基づくものです

( C9300LバリエーションはStackPowerをサポートしていません )

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

次の表に、Cisco StackPowerおよびXPSのさまざまなケーブルを示します。

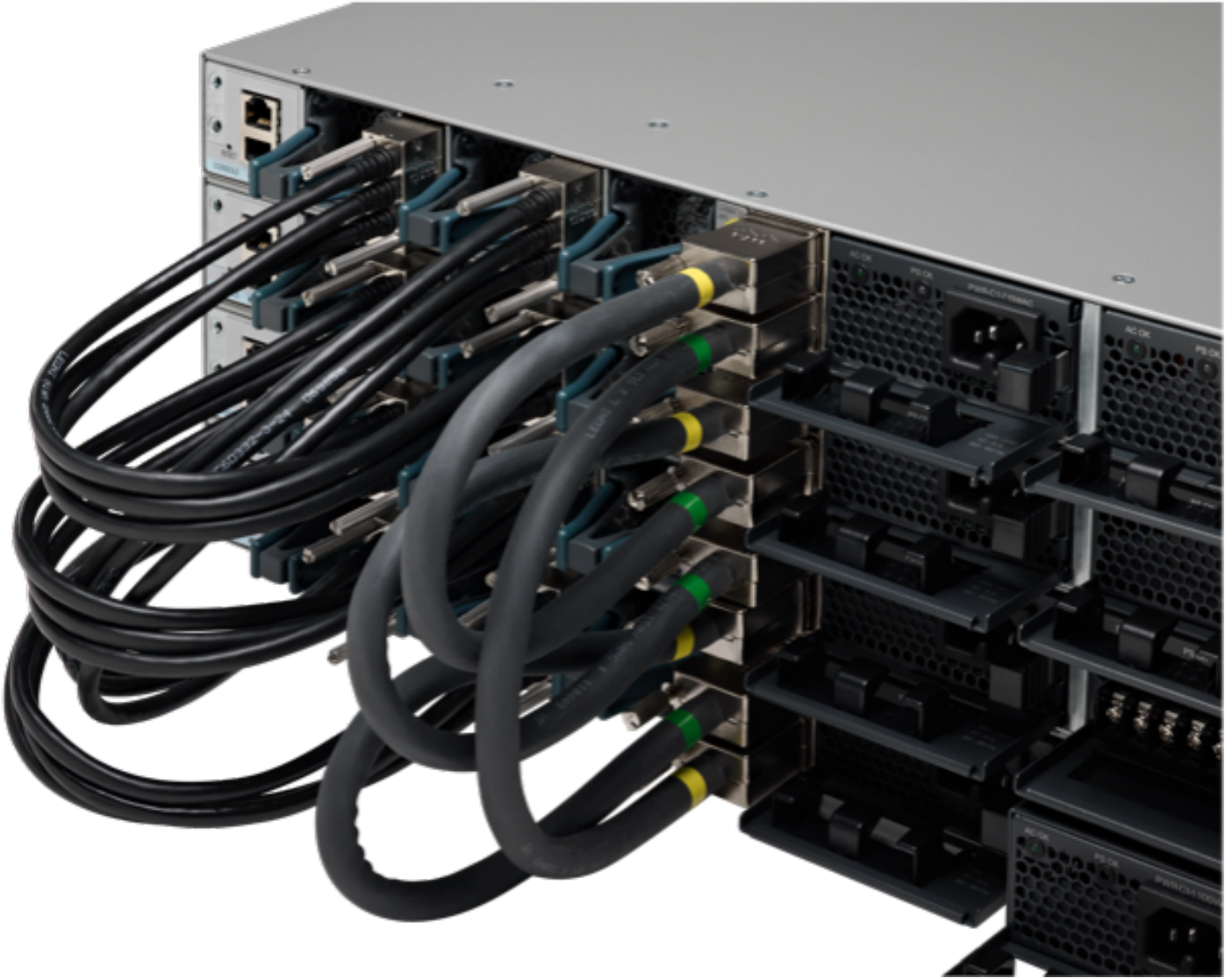
製品 ID	説明
CAB-SPWR-30CM	30cm StackPowerケーブル
CAB-SPWR-150CM	150 cm StackPowerケーブル
CAB-XPS-58CM	58cm XPS StackPowerケーブル
CAB-XPS-150cm	150cm XPS StackPowerケーブル

『シスコ StackPower また、XPSケーブルにはキーが付いており、コネクタを差し込む対象を理解できるように両端に色付きのバンドが付いています。』

 ヒント : 緑色のバンドのケーブル端は、Cisco Catalyst 9300シリーズスイッチにのみ接続で

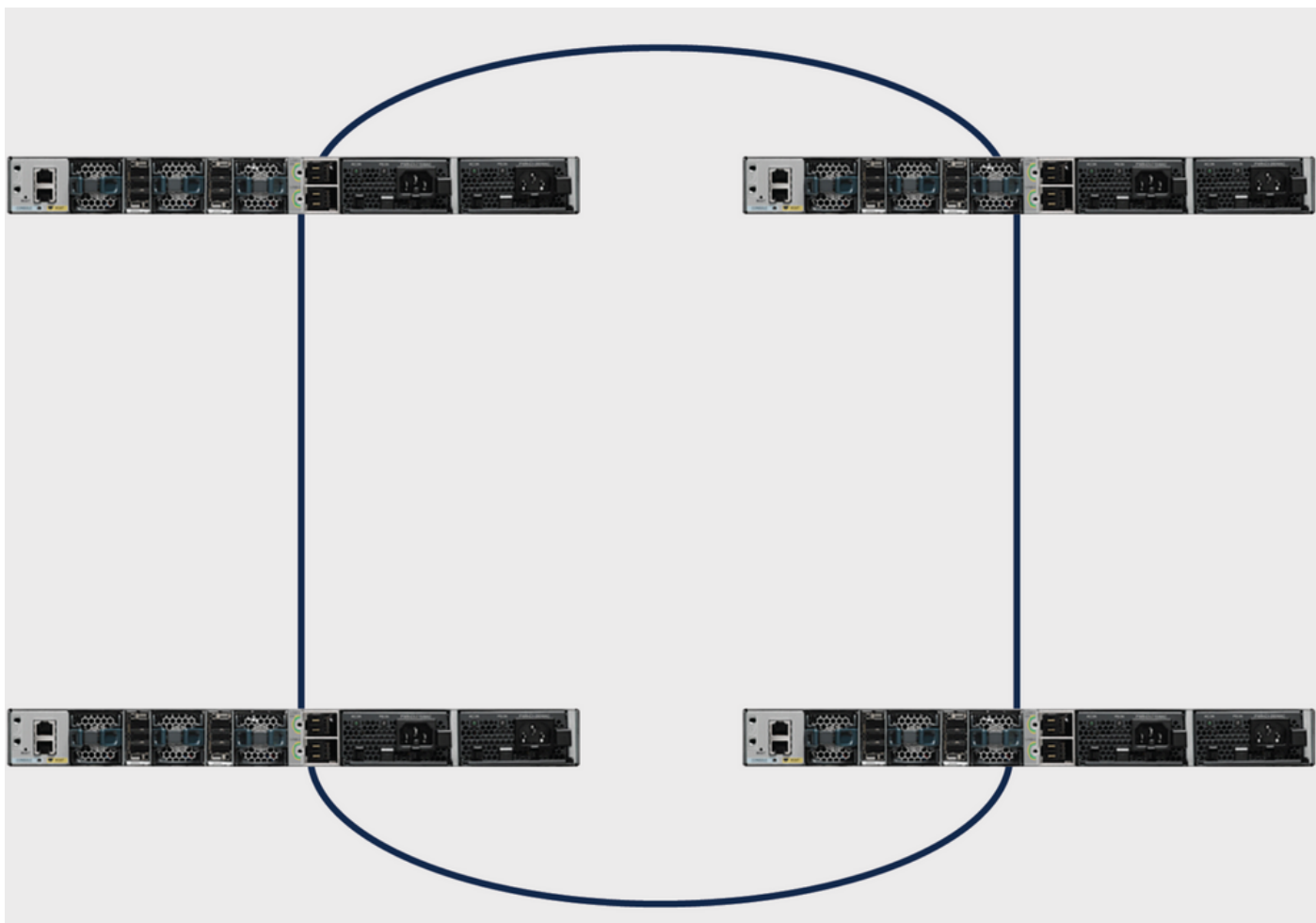
🔍 きます。イエローバンドのケーブル端は、9300シリーズスイッチまたはXPS 2200に接続できません。

図 1.に、付属の0.3 mのCisco StackPowerケーブルと1.5 mのケーブル1本の両方を使用するためのリング構成を示します。この例では、スイッチは垂直ラックにスタックされています。



StackPowerおよびStackWiseケーブルが正しく設置されていること

図 2： リングトポロジ



## Cisco Expandable Power System 2200

スター型トポロジには、XPS 2200の拡張可能な電源システムが必要です。XPS 2200は次世代の冗長電源システムで、最大8台のCisco Catalyst 9300シリーズスイッチの冗長性と、最大8台の9300シリーズスイッチのCisco StackPower機能を提供します。

Cisco eXpandable Power System(XPS)2200は、Catalystスイッチに接続できるスタンドアロンの電源システムです。XPS 2200では、電源障害が発生した接続デバイスにバックアップ電源を供給できます。また、Catalystスイッチの電源スタックでは、電源スタックのバジェットに追加の電源を供給できます。XPS 2200の電源ポートと内部電源装置は、冗長電源(RPS)モードまたはスタック電源(SP)モードで動作します。

### XPS 2200の電源モード

XPSには、RPSモードまたはSPモードの2つの電源装置があります。

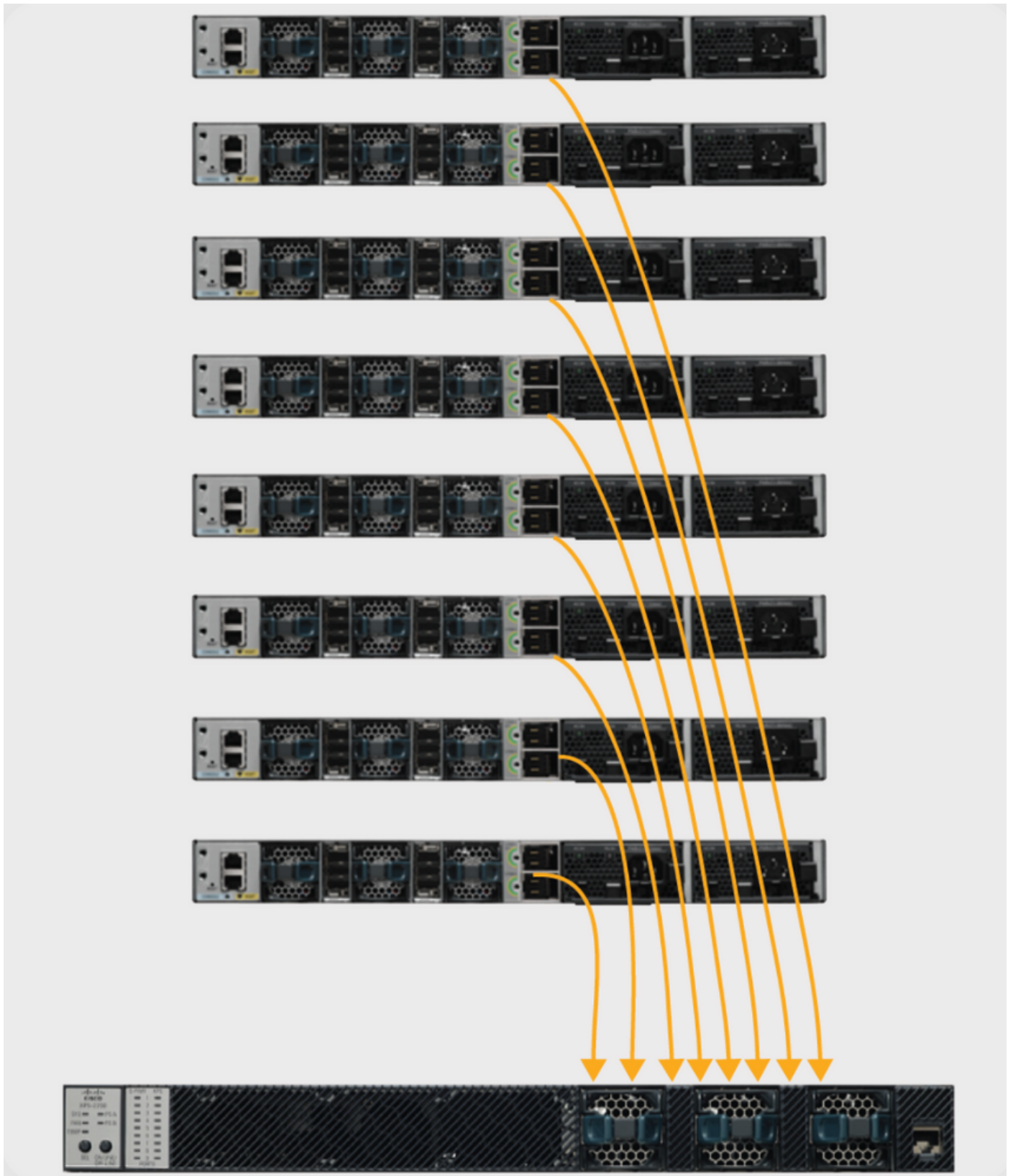
SPモードでは、XPSのすべてのSPポートが同じ電源スタックに属します。電源スタックにXPSが含まれている場合、スタックトポロジはスター型トポロジであり、最大9台のメンバスイッチとXPS 2200で構成されます。XPS電源またはSPモードの電源は、電力バジェットで考慮されます。両方のXPS電源モジュールがRPSモードの場合、電源スタックはSPモードのXPSポートに接続されたスイッチだけで構成され、電力バジェットはこれらのスイッチの電源モジュールによって決定されます。

電源モジュールの役割の不一致がある場合、たとえば、XPSポートがRPS用に構成されていて、両方の電源モジュールがSPモードである場合、XPSはその不一致を検出し、エラーメッセージが送信されます。

## Expandable Power System 2200の制限事項

- バックアップ用のスイッチ電源にRPSモードでExpandable Power System (XPS)電源を使用する場合、XPSの最小電源は、RPSモードのXPSポートに接続されたスイッチの最大電源よりも大きい必要があります。
- RPSモードでは、各XPS電源は、サイズに関係なく、1つのスイッチ電源のみをバックアップできます。
- 電源モジュールを（スイッチまたはXPSから）電源スタックから取り外す場合は、取り外したときに使用可能な電力が不足して負荷が低下していないことを確認してください。
- Cisco Catalyst 9300Lシリーズスイッチは、Stack PowerおよびXPS 2200をサポートしていません。

図 3：スター型トポロジの設定を示します。この例では、スイッチは垂直ラックにスタックされています



Cisco Catalyst 9300シリーズスイッチには複数の電源オプションが用意されており、スタック内のどのスイッチでも、任意の組み合わせで任意の電源を使用できます。

次の表に、Cisco Catalyst 9300シリーズスイッチ用のさまざまな電源オプションを示します。

製品 ID	説明
PWR-C1-350WAC	350 W AC電源
PWR-C1-715WAC	715W AC電源
PWR-C1-1100WAC	1,100 W AC電源
PWR-C1-715WDC	715W DC電源
PWR-C1-350WAC-P	350 W AC電源 ( プラチナ規格 )
PWR-C1-715WAC-P	715W DC電源 ( プラチナ規格 )
PWR-C1-1100WAC-P	1,100 W AC電源 ( プラチナ規格 )

Cisco Catalyst 9300シリーズスイッチは、冗長電源用に2つのスロットを備えていますが、48ポートスイッチにフルPoE+が導入されていない限り、1台のスイッチで稼働するのに必要な電源は1つだけです。この場合、電力要件は1700 Wを超え、これは使用可能な最大の電源モジュールで提供される1100 Wを超えます。スイッチをCisco StackPowerスタック内に導入する場合、このスイッチの要件を満たすのに十分な電力がスタックにある場合は、2つ目の電源モジュールが不要な場合があります。ただし、適切なエアフローを維持するためには、電源モジュールのスロットをカバーする必要があります。

スタンドアロンスイッチまたはスタックで電源タイプを混在させることができます。つまり、350 W AC電源 ( データ専用スイッチのデフォルト ) を、715 Wまたは1100 W AC電源 ( フルPoEスイッチのデフォルト ) または715 W DC電源と組み合わせることができます。

## StackPowerへの新しいスイッチの追加

Cisco StackPowerテクノロジーは、Cisco Catalyst 9300シリーズスイッチのMCUを起動するのに十分な電力を予約しています。スタックに復元力を追加します。稼働中の電源スタック ( リングまたはスター ) に新しいメンバを追加する場合、稼働中の電源スタックに対するサービスを中断する必要はありません。また、2つのリング ( 2つの2つのリングを4つの単一リングにマージするなど ) を、どちらのリングにもサービスを中断することなく「マージ」できます。いずれの場合も ( サービスが中断されないように )、リングが一度に1つのポイントでのみ切断されるように注意する必要があります。

## StackPowerの動作モード

Cisco StackPowerには、共有と冗長の2つの動作モードがあります。

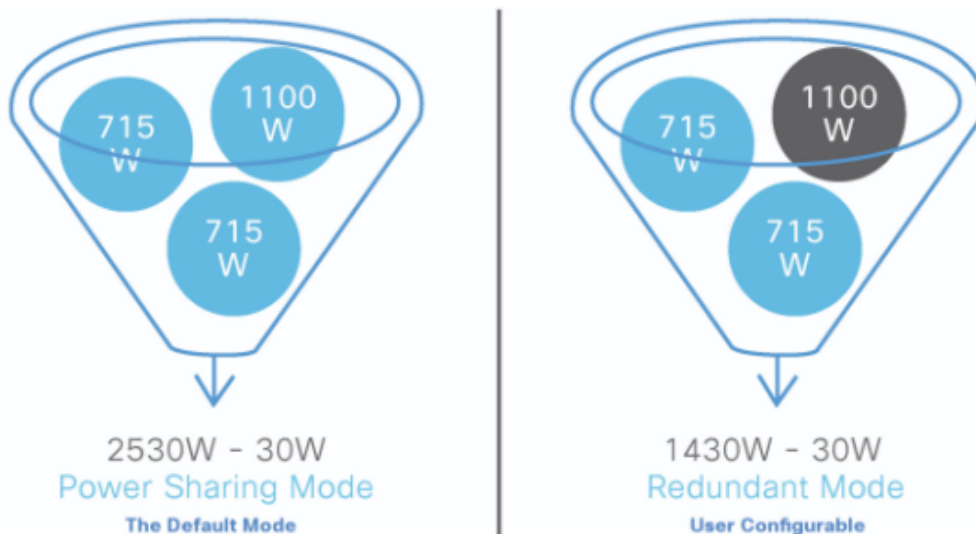
共有モード ( デフォルト ) では、すべての入力電力をスタック内の任意の場所で使用できます。使用可能な総電力は、電力割り当ての決定に使用されます。電源モジュールに障害が発生しても、予算から残っている使用可能な電力が使用され、システムコンポーネントやPoEデバイスには影響しません。予算に十分な電力がない場合は、PoEデバイスをシャットダウンし、その後プライオリティに基づいてスイッチをシャットダウンします。デフォルトでは、ロードシェディングの順序は次のとおりです。


- 低優先度ポート
- 高優先度ポート
- スイッチ

電源の優先順位は設定可能です。デフォルトでは、システム内のすべてのポートが低優先度と見なされます。

冗長モードでは、最大の電源モジュールからの電力が電力バジェットから差し引かれます。これにより、使用可能な総電力は減少しますが、電源装置に障害が発生した場合にバックアップ電力を使用できます。

図 4： 共有および冗長StackPower動作モードを示す



 ヒント:StackPowerは、スタックに新しいスイッチが追加された場合に30 Wも予約します。

## インテリジェントな負荷管理


Cisco StackPowerには、データスタック内の最大8台のスイッチと、スタック全体のすべてのポートをカバーするプライオリティ方式があります。プライオリティはスタックの作成時にデフォルトで設定されますが、設定可能であり、スイッチまたはインライン電力供給先デバイスが電力を受け取る際のプライオリティに影響します。このプライオリティによって、電力不足が発生した場合にインライン電力供給先のデバイスとスイッチの電源をオフにする順序が決まります。イ



インテリジェントな負荷管理により、負荷を適切に分散できます。このスイッチには、設定可能な優先順位が3つあります。システム（またはスイッチ）の優先順位、優先度の高いPower over Ethernet(PoE)ポートの優先順位、および優先度の低いPoEポートの優先順位です。

図 5.Cisco StackPowerのデフォルトの優先度を表示します。

Default StackPower priorities																										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
Switches									High priority ports									Low priority ports								

 ヒント：デフォルトのプライオリティ範囲（設定されていない場合）は、スイッチの場合は1～9、高優先度ポートの場合は10～18、低優先度ポートの場合は19～27です。

## Cisco StackPowerの設定

stack-power stack <NAME>コマンドを使用して、ユーザ定義スタックのStackPowerモードおよびその他の値を定義します

```
<#root>
```

```
Catalyst-9300(config)#
```

```
stack-power stack MyPowerStack
```

```
Catalyst-9300(config-stackpower)#
```

```
?
```

```
Power stack configuration mode:
```

```
default Set a command to its defaults
```

```
exit Exit from power stack configuration
```

```
mode Power stack mode
```

```
no Negate a command or set its defaults
```

stack-power switch <number>コマンドを使用して、プライオリティ値を設定するスイッチを指定します。

```
<#root>
```

```
Catalyst-9300#
```

```
configure terminal
```

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z
```

```
Catalyst-9300(config)#
```

```
stack-power switch 3
```

```
Catalyst-9300(config-switch-stackpower)#
```

```
power-priority switch 3
```

```
Catalyst-9300(config-switch-stackpower)#
```

```
power-priority high 10
```


```
Catalyst-9300(config-switch-stackpower)#
```

```
power-priority low 20
```

```
Catalyst-9300(config)#
```

```
end
```

---

 ヒント：電源スタック内の各スイッチおよびそのスイッチ上のすべての高優先度ポートと低優先度ポートの優先順位値を設定して、電源が失われてロードシェディングが発生したときにスイッチとポートがシャットダウンされる順序を設定できます。プライオリティ値は1～27で、最も高い値を持つスイッチとポートが最初にシャットダウンされます

---

power inline port priority <high/low>コマンドを使用して、インターフェイスを高または低のプライオリティに設定します。

```
<#root>
```

```
Catalyst-9300(config)#
```

```
interface GigabitEthernet1/0/1
```

```
Catalyst-9300(config-if)#
```

```
power inline port priority ?
```

```
high high priority port
```

```
low low priority port
```

ヒント：どのスイッチでも、スイッチのプライオリティ値はポートプライオリティ値より小さくなくならず、高優先度の値は低優先度の値より小さくなくならないようにします。各スイッチと、その高優先度ポートと低優先度ポートに異なるプライオリティ値を設定することを推奨します。この設定により、停電時に一度にシャットダウンするデバイスの数が制限されます。電源スタック内の異なるスイッチで同じプライオリティ値を設定しようとする、設定は許可されますが、ログメッセージが表示されます。

## StackPower設定の確認

ここでは、設定が正常に機能しているかどうかを確認します。

show stack-power detailコマンドを使用して、電源スタックがスイッチによって正しく識別されていること、およびStackPowerポートが接続されていることを確認します。このコマンドは、トポロジ情報も表示し、スタックが予想どおりにケーブル接続されていることを確認するために使用できます。

```
<#root>
```

```
Catalyst-9300#
```

```
show stack-power detail
```

Power Stack Name	Stack Mode	Stack Topolgy	Total Pwr(W)	Rsvd Pwr(W)	Alloc Pwr(W)	Unused Pwr(W)	Num SW	Num PS
Powerstack-1	SP-PS	Ring	5115	35	1180	3900	4	5

```
Power stack name: Powerstack-1
```

```
<<---- StackPower Name
```

```
Stack mode: Power sharing
```

```
<<---- StackPower Operational Mode
```

```
Stack topology: Ring
```

```
Switch 1:
```

```
Power budget: 1200
```

```
Power allocated: 240
```

```
Low port priority value: 20
```

```
High port priority value: 11
```

```
Switch priority value: 2
```

```
Port 1 status: Connected
```

```
Port 2 status: Connected
```

```
Neighbor on port 1: Switch 4 - dcf7.199a.5e80
```

```
Neighbor on port 2: Switch 2 - 046c.9d1f.3400
```

```
Switch 2:
```

```
Power budget: 1230
```

```
Power allocated: 240
```

```
Low port priority value: 19
```

```
High port priority value: 10
```

```
Switch priority value: 1
```

```
<<---- Priority StackPower values
```

```
Port 1 status: Connected
```

```
Port 2 status: Connected
```

```
Neighbor on port 1: Switch 1 - 046c.9d1f.3b80
```

```
<<---- StackPower neighbors
```

```
Neighbor on port 2: Switch 3 - 046c.9d1f.6c00
```

Switch 3:  
 Power budget: 1230  
 Power allocated: 240  
 Low port priority value: 21  
 High port priority value: 12  
 Switch priority value: 3  
 Port 1 status: Connected

<<---- StackPower ports status

Port 2 status: Connected  
 Neighbor on port 1: Switch 2 - 046c.9d1f.3400  
 Neighbor on port 2: Switch 4 - dcf7.199a.5e80

Switch 4:  
 Power budget: 1420  
 Power allocated: 460  
 Low port priority value: 22  
 High port priority value: 13  
 Switch priority value: 4  
 Port 1 status: Connected  
 Port 2 status: Connected  
 Neighbor on port 1: Switch 3 - 046c.9d1f.6c00  
 Neighbor on port 2: Switch 1 - 046c.9d1f.3b80

次の表に、StackPowerの確認に使用できるさまざまなコマンドを示します。

コマンド	目的
<p>Catalyst 9300#show stack-power ?</p> <p>    予算 Show Stack-Power 予算テーブル</p> <p>    詳細を表示 Stack-Power スタックの詳細</p> <p>    ロードシェディングの Show Stack-Power □ ロードシェディングテーブル</p> <p>    neighbors Show Stack-Power stack neighbor table</p> <p>                        出力修飾子</p>	<p>StackPower バジレットテーブル、スタックの詳細、ロードシェディングテーブル、およびスタックネイバーテーブルを確認します。</p>

<p>&lt;cr&gt; &lt;cr&gt;</p>	
<p>Catalyst 9300#show stack-power budgeting ?</p> <p>stack-name特定の電源スタックのバジェットテーブルを表示する</p> <p>スイッチ特定のスイッチのバジェットテーブルを表示する</p> <p>                    出力修飾子</p> <p>&lt;cr&gt; &lt;cr&gt;</p>	<p>特定の電源スタック&lt;stack-name&gt;または特定のスイッチ&lt;switch number&gt;のスタック電力バジェットを確認します。</p>
<p>Catalyst 9300#show stack-power detail ?</p> <p>stack-name特定の電源スタックのStack-Powerの詳細を表示します。</p> <p>スイッチのShow Stack-Powerの詳細 ( スイッチの場合 )</p> <p> 出力修飾子</p> <p>&lt;cr&gt; &lt;cr&gt;</p>	<p>特定の電源スタック&lt;stack-name&gt; または特定のスイッチ&lt;switch number&gt;のStackPowerの詳細を確認します。</p>
<p>Catalyst 9300#show stack-power load-shedding ?</p> <p>order : 電力スタックの負荷シェディングの優先順位を表示します。</p> <p>スイッチの負荷シェーディングテーブルの表示</p> <p>                    出力修飾子</p> <p>&lt;cr&gt; &lt;cr&gt;</p>	<p>特定の電源スタック&lt;stack-name&gt; または特定のスイッチ&lt;switch number&gt;のStackPowerロードシェディング優先順位を確認します。</p>
<p>Catalyst 9300#show stack-power neighbors ?</p> <p>stack-name特定の電源スタックのネイバーテーブルを表示する</p> <p>switchスイッチのネイバーテーブルを表示する</p>	<p>所定の電源スタック&lt;stack-name&gt; または所定のスイッチ&lt;switch number&gt;のStackPowerネイバーテーブルを確認します</p>

出力修飾子 <cr> <cr>	
Catalyst-9300#stack-power switch 1 port 1 ? 電源スタックポートの無効化 enable power stackポート	StackPowerポートを手動で有効または無効にする


スタック内の各スイッチの電源モジュールのステータスを表示するには、show environment power allコマンドを使用します。この出力は、4メンバのスタックを示しています。バンク1A、1B、4Bには電源が存在しない。

```
<#root>
```

```
Catalyst-9300#
```

```
show environment power all
```

SW	PID	Serial#	Status	Sys Pwr	PoE Pwr	Watts
1A	Not Present					
1B	Not Present					
2A	PWR-C1-1100WAC	LIT21212WAR	OK	Good	Good	1100
2B	PWR-C1-715WAC	LIT211549FX	OK	Good	Good	715
3A	PWR-C1-1100WAC	LIT21212NFY	OK	Good	Good	1100
3B	PWR-C1-1100WAC	DTN2145V53F	OK	Good	Good	1100
4A	PWR-C1-1100WAC-P	ART2216FDQJ	OK	Good	Good	1100
4B	Not Present					

 ヒント：電源スロットの名前は左から右の順です。つまり、電源スロットAは左側に、電源スロットBは右側（スイッチの端に最も近い側）にあります。

## Cisco Expandable Power System 2200の設定

ユーザー定義スタックのXPS名およびその他の値を定義します

```
<#root>
```

```
Catalyst-9300(config)#
```

```
power xps ?
```

<1-16> Switch Number

Catalyst-9300(config)#

power xps 1 name ? <<---- In a stacked system, the switch-number entered must be the switch number

WORD Name of the XPS

serialnumber Use the XPS serial number as the name <<---- Use the serial number of the XPS 2200 as

Catalyst-9300(config)#

power xps 1 name MY\_XPS ? <<---- Enter a name for the XPS 2200 system. The name can have up to 20 characters

<cr> <cr>

Catalyst-9300(config)#

power xps 1 port 1 name ? <<---- Enter a name for the XPS 2200 switch 1 stackpower port 1

WORD Name of port

hostname Use the connected switch's hostname as the port name

serialnumber Use the connected switch's serial number as the port name

XPSモード、優先順位、およびロールの値を構成するスイッチおよびStackPowerポートを指定します

<#root>

Catalyst-9300#

power xps 1 port 1 ? <<---- Switch 1 StackPower port 1

mode Set the mode of the XPS port

priority Set the priority of the XPS port

role Set the role of the XPS port

Catalyst-9300#

power xps 1 port 1 mode ?

disable Set XPS port mode to disable

<<---- Disable (shut down) the XPS port.

enable Set XPS port mode to enable

<<---- Enable the XPS port. This is the default

Catalyst-9300#

power xps 1 port 1 priority ?

<1-9> XPS port priority

<<----- Set the RPS priority of the port. The range is 1 to 9, The 1 is the highest priority. The default

Catalyst-9300#

power xps 1 port 1 role ?

auto Set XPS port role to auto Stack Power

<<----- The port mode is determined by the switch connected to the port. This is the default.

rps Set XPS port role to RPS

<<----- The XPS acts as a back up if the switch power supply fails. At least one RPS power supply must be

XPS電源モードを構成するスイッチを指定します

<#root>

Catalyst-9300#

power xps 1 supply ? <<----- Select the power supply to configure. Power supply A is on the left (label

A XPS power supply A

B XPS power supply B

Catalyst-9300#

power xps 1 supply A mode ?

rps RPS

<<----- Set the power supply mode to RPS, to back up connected switches. This is the default setting for

sp Stack Power

<<----- Set the power supply mode to stack power (SP), to participate in the power stack. This is the def

Catalyst-9300#

power xps 1 supply A

(

on|off

)



<<---- Sets the XPS power supply to be on or off. The default is for both power supplies to be on.

## Cisco XPS 2200設定の確認

ここでは、設定が正常に機能しているかどうかを確認します。

次の表に、Cisco XPS 2200の確認に使用できるさまざまなコマンドを示します。

コマンド	目的
show environment xpsシステム	システムとポートの設定済みの名前を確認します。
show environment xps port	ポートのXPS構成を確認します。
環境のxps電力を表示する	XPS電源のステータスを表示します

## トラブルシューティング

ここでは、設定のトラブルシューティングに使用できる情報を示します。

問題：無効なリング：C9300は4つのStackPowerスタックをサポートしています。4つ以上のデータスタックが1つのStackPowerリングに物理的にケーブル接続されている場合に、一般的な問題が発生します。無効なトポロジを示すsyslogが生成されます。

```
%PLATFORM_STACKPOWER-3-INVALID_TOPOLOGY: Invalid power stack topology observed by switch 1. More than f
```

解決策：リングトポロジを使用する場合は、最大4つのメンバで電源スタックを設定します。データスタックに4つ以上のメンバが含まれている場合は、2つ以上のStackPowerリングをケーブル接続します。1つのデータスタックで複数の電源スタックをサポートします。

問題：ケーブル接続の問題：スイッチのStackPowerポートに接続されているケーブルとの接続が失われると、システムはこれを再挿入と見なし、syslogを生成します。

```
%PLATFORM_STACKPOWER-6-CABLE_EVENT: Switch 4 stack power cable 2 inserted
```

解決策：syslogには、どのスイッチとポートが切断されるかが示されています。このケーブルを物理的に点検し、接続を抜き差しします。問題が解決しない場合は、Technical Assistance Center(TAC)にお問い合わせください。

問題：電源のアンバランス：スタックメンバーにアンバランスな数の電源モジュールが含まれている場合、システムからsyslogが生成されます。

```
%PLATFORM_STACKPOWER-4-UNBALANCED_PS: Switch 1's power stack has unbalanced power supplies
```

解決策：電源スタック内の各シャーシに同数の電源を取り付けます。各シャーシでワット量が混在する電源モジュールがサポートされます。

問題：StackPowerの競合：StackPowerに4つ以上のメンバが含まれている場合、システムはsyslogを生成します。

```
%PLATFORM_STACKPOWER-4-PRIO_CONFLICT: Switch 4's power stack has conflicting power priorities. Device p
```

解決策：最大4台のスイッチをリングトポロジの電源スタックに含めることができ、XPS 2200を使用するスター型トポロジでは最大8台のスイッチで電力を共有できます。

問題 – StackPowerの冗長損失：StackPower (冗長モード) の電源がスタックに存在しなくなったか、機能に問題があると、システムからsyslogが生成されます。

```
%PLATFORM_STACKPOWER-4-REDUNDANCY_LOSS:Switch 3's power stack lost redundancy and is now operating in p
```

解決方法：StackPowerケーブルと電源を確認し、PSUのハードウェアの問題を検証または破棄します。

問題：StackPowerケーブルA電流：ハードウェア障害を示している可能性があります。

```
%PLATFORM_STACKPOWER-4-CABLE_A_CURRENT_IN: Switch 1 stack power cable 1 inward current is over the limi
```

解決策：TACに問い合わせ、さらにトラブルシューティングを行います。

問題：StackPowerポートがケーブル接続された状態で接続されていない：スタック電源ケーブルを接続する際に、StackPowerポートがシャットダウン状態になっていないことを確認します。ケーブルがシャットダウンされたポートに接続している場合、もう一方の端はNoConn状態のままです。このシナリオでは、8メンバのデータスタックケーブルが正しく設定されておらず、複数の

ポートがシャットダウン状態になる問題が発生しました。スタックケーブルが正しく設置された後、StackPowerトポロジが期待どおりに解決しませんでした。

<#root>

C9300-Stack#

show stack-power neighbors

Power Stack Name	Stack Mode	Stack Topolgy	Total Pwr(W)	Rsvd Pwr(W)	Alloc Pwr(W)	Sw_Avail Pwr(W)	Num SW	Num PS
Powerstack-1	SP-PS	Stndaln	2200	0	243	1957	1	2
Powerstack-1-2	SP-PS	Ring	2200	30	243	1927	1	2
Powerstack-12	SP-PS	Ring	4400	30	486	3884	2	4
Powerstack-14	SP-PS	Ring	4400	30	486	3884	2	4
Powerstack-1-1	SP-PS	Stndaln	2200	0	243	1957	1	2

SW	Power Stack Name	Port 1 Status	Port 1 Neighbor SW:MAC	Port 2 Status	Port 2 Neighbor SW:MAC
1	Powerstack-1	Shut	-	Shut	-
2	Powerstack-1-2	Conn	1:7018.a76c.8a00	NoConn	-
3	Powerstack-12	NoConn	-	Conn	4:7018.a733.9b00
4	Powerstack-12	Conn	3:7018.a733.8f00	NoConn	-
5	Powerstack-12	Conn	6:7018.a76c.b100	NoConn	-
6	Powerstack-14	Shut	-	Conn	7:7018.a76d.1680
7	Powerstack-14	Conn	6:7018.a76c.b100	Shut	-
8	Powerstack-1-1	NoConn	-	NoConn	-

解決策：障害やエラーが発生すると、電源スタックポートがシャットダウンする可能性があります。コマンドラインまたはシステムのリロードによって、手動で再度有効にする必要があります。

## 考慮事項

- 1つのリングトポロジでは、スタックあたり4つのスイッチのみ。
- スイッチとポートのプライオリティに関しては、小さい値が大きい値よりも優先されます。
- スイッチのプライオリティ値は、ポートのプライオリティ値より小さくしなければなりません。
- 高優先順位値は低優先順位値より低く設定する必要があります。
- StackPowerケーブルは、必要な場合にのみ取り外して再接続してください。不要な再挿入によってケーブルの寿命が短くなります。
- 新しいスイッチは、サービスを中断することなく、確立された電源スタックに参加できます。StackPowerケーブルはホットスワップ可能です。
- 問題が解決しない場合は、TACに連絡してください。

## StackPowerに関する注意事項

Cisco Bug ID番号	説明
Cisco Bug ID <a href="#">CSCvi89146</a>	%PLATFORM_STACKPOWER-4-REDUNDANCY_LOSS : スイッチ4の電源スタックで冗長性が失われた
Cisco Bug ID <a href="#">CSCvo44552</a>	スタンドアロンモードに変更すると、Show Stack-power budgetで一部のスイッチが失われます。
Cisco Bug ID <a href="#">CSCvw99523</a>	C9300のリングスタック電源で動的な電力バジェットネゴシエーションに時間がかかりすぎる
Cisco Bug ID <a href="#">CSCve28864</a>	スタック電源ケーブルのOIR、SSO、およびスロットのリロード時にスタック電源の概算が間違っている
Cisco Bug ID <a href="#">CSCvo44552</a>	スタンドアロンモードに変更すると、一部のスイッチでShow Stack-power budgetが失敗する
Cisco Bug ID <a href="#">CSCvi36291</a>	StackPowerに割り当てられた予算が正しくない
Cisco Bug ID <a href="#">CSCvh00427</a>	StackPowerモードの「non-strict」は電力を正しく共有しません。
Cisco Bug ID <a href="#">CSCvk44346</a>	9300のStrictモードでは電力の高優先度は見られません。

## 関連情報

[Cisco StackPowerについてホワイトペーパー](#)

[Cisco Catalyst 9300シリーズスイッチハードウェアインストールガイド](#)

[テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。